

第13期東京都生涯学習審議会 第5回全体会

次 第

令和7年12月15日（月曜日）午後3時から午後5時まで
（会場：都庁第二本庁舎10階 201・202会議室）

- 1 開会
- 2 議事
東京都の地域教育プラットフォームの今後の方向性
- 3 今後の予定
- 4 閉会

【配布資料】

資料 第13期東京都生涯学習審議会第5回全体会 審議資料

第13期東京都生涯学習審議会委員

(任期：令和7年1月23日から令和9年1月22日まで)

氏名	所属
アオヤマ テツベイ 青山 鉄兵	文教大学人間科学部准教授
アサクラ ミユキ 朝倉 美由紀	明星大学教育学部特任教授
イマ イ ヌウスケ 今井 悠介	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事
クラモチ イブエ 倉持 伸江	東京学芸大学教育学部准教授
ササ イ ヒロミ 笹井 宏益	玉川大学学術研究所高等教育開発センター客員教授
シノ タ ヌトミ 塩田 琴美	株式会社CMU Holdings CEO/一般社団法人こみゅステージ代表理事
シシダ シタマナミ 志々田 まなみ	国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官
タ ナカ マサヒロ 田中 真宏	特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所代表理事
フジハラ タクミ 藤村 琢己	一般社団法人Fora代表理事

第13期東京都生涯学習審議会
第5回全体会 審議資料

令和7年12月15日

1 開会

2 議事

東京都の地域教育プラットフォームの
今後の方向性

3 今後の予定

4 閉会

- 東京都の地域教育プラットフォームの今後の方向性

今後の東京都の地域教育プラットフォームに関する論点に関する主な御意見

論点1について

豊富な社会資源との連携が可能な東京都ならではの新たな地域教育プラットフォームを構想

- 地域にある学びへのアクセスが加わり、学校と社会を往還することができるとうい
- 学校が教育プログラムを選ぶ際のコーディネート・マッチング機能、学校のニーズを踏まえたプログラム提供、プログラムの質保証が求められる
- 都社会教育主事が全てコーディネートするのは不可能なため、NPO等が中間支援に入りプログラムの企画や提案をしてはどうか
- 教育プログラムによるコンテンツベースのマッチングだけでなく、居場所や環境ベースにプラットフォームがつながることも重要ではないか
- 団体が発表する機会等を提供できるとよい

論点2について

新たな課題に柔軟に対応できる体制の整備

- トップダウンにもボトムアップにも対応できることが大事
- ボランティアを基本にわくわくする仕掛けをつくること、成果をオープンにすることで持続可能になるのではないか
- 一つの傘で全体を平たく包むより、ブロックがクロスした集合体のイメージがよい
- 一定の関心やテーマで集い、実験できる幅があるのがよい

今後の東京都の地域教育プラットフォームに関する論点に関する主な御意見

論点3について

地域のニーズに応える機能の追加

- 地域や立場を超えた研修や研究の場があるとよい
- オンラインの情報共有等、双方型のコミュニティがあるとよい
- 障害のある方に対してもオンラインの居場所や交流があると多様な学びの機会になる
- 高校の総合的な探究の時間等で、地域での学びをコーディネートするモデルができるとよい
- 学生主体の教育事業運営の動きもあり、プラットフォームにつながるとよい
- 区市町村がコーディネーターの人材育成を行っているが、規模や実情が異なるため、ネットワーキングの質を高め広げることが大事
- 社会教育士や社会教育人材はこのプラットフォームにつながるか検討してはどうか
- 共助的な学びをキーワードに、様々なタイプの学び方や小テーマがあり、小グループがつながるネットワーク組織が求められているのではないか

第13期東京都生涯学習審議会の議論の整理

地域教育プラットフォームの成果

< 地域教育推進ネットワーク東京都協議会 >

平成17年の設立以降、累計600以上の団体の登録があり、多様な専門的な教育プログラムをもつ企業やNPO等の社会資源を活用しながら都立学校等を支援

< インクルーシブな学び東京コンソーシアム >

インクルーシブシティ東京の実現を目指し、障害のある人々の生涯にわたる学びを支援するとともに、障害のある人もない人も共に学べる環境づくりに向けた取組を展開

現状・課題

地域教育推進ネットワーク東京都協議会は「協議会」という名称であるが、協議や情報交換の場などの機能をもっておらず、活用（導入）可能な多様な教育プログラムの継続的なアップデートが不十分

時代の変化や新たな課題に対応する仕組みが不十分

設立して間もないインクルーシブな学び東京コンソーシアムは、区市町村、学校、企業、NPO等多様な主体との連携協働について引き続き検討する必要がある

広域行政として区市町村、団体等を支援する役割を強化することが必要

検討すべき事項

- 現在の地域教育推進ネットワーク東京都協議会を刷新し、豊富な社会資源を効果的・継続的に活用できる東京都ならではの新たな仕組みづくりを検討
- インクルーシブな学び東京コンソーシアムについて、障害者の生涯学習支援にとどまらず、多様な人が共に支え合う共生社会の実現に向けた取組が可能となるしかけを検討
- 従来からの施策や事業に加え、多様な学びの創出に向けた施策や事業等、新たな課題に柔軟に対応できる体制整備について検討
- 小中学校や学校外教育を実施する区市町村と東京都が培ってきた地域教育プラットフォームとの効果的な連携方法や、地域のニーズに応える機能の追加を検討

第13期東京都生涯学習審議会 議論の方向性(事務局案)

審議事項

これからの東京の地域教育の在り方について

方向性(案)

「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」、「インクルーシブな学びコンソーシアム」の2つのプラットフォームの成果を踏まえ、豊富な社会資源を効果的・継続的に活用できる東京都ならではの仕組み作りについて議論

ポイント①

新たな地域教育プラットフォームの構築

- ▶ 「キャリア教育」、「共生社会」等のテーマ別カテゴリーを検討
- ▶ 各種プログラム、事業の評価・フィードバックや情報共有・情報交換が可能となる仕組みを検討

ポイント②

区市町村等との連携強化

- ▶ 都内にある企業やNPO法人等の豊富な社会資源を区市町村等が効果的・継続的に活用できるような仕組みを検討
- ▶ 地域に存在する社会教育にかかわる多様な人材の活用・連携方策を検討

政策的位置付け

2050東京戦略

ビジョン08 コミュニティ

- ・地域コミュニティの重要性に改めて光を当てる
- ・多様なコミュニティが人々の支え合いを創出

ビジョン09 共生社会

- ・共生社会の実現に向けた取組を一層推進し、ありたい自分の実現を後押し
- ・多様性を原動力として、東京が更なる飛躍を遂げる

東京都教育施策大綱

2050年代の東京の姿

学びのあり方を東京から改革し、社会の変化に柔軟に対応できる「新たな教育のスタイル」により、自分らしく成長できる自由で多様な学びが展開

東京の目指す教育

子供たちが、学校内外での学びが、社会や自分の将来とどのようにつながっているかを意識し、学びの意義や意味を実感できる

新たな地域教育プラットフォーム(イメージ)

現行の地域教育プラットフォーム

地域教育推進ネットワーク
東京都協議会
〔 地域と学校の連携協働 〕

- ▶ 企業やNPO等の有する多様な専門性を活かした教育プログラム(生活、職業、自己探究等)を学校等に提供
- ▶ 都立高校における教育プログラム活用のコーディネート
- ▶ 区市町村における地域コーディネーターへの支援
※統括コーディネーター等を通じた教育プログラムに関する情報提供

インクルーシブな学び東京
コンソーシアム
〔 共生社会の実現に向けた
多様な主体との連携協働 〕

- ▶ 児童・生徒等に対する共生社会の理解促進に向けたプログラムの実施
- ▶ 障害の有無にかかわらず交流や学びの場の提供
- ▶ 企業やNPO等の多様な専門性を活かした教育プログラムの検証・改善
- ▶ 企業やNPO等の交流、情報交換の場を提供

一体的に運用

新たな地域教育プラットフォーム

- ・ 都内にある企業やNPO法人等の豊富な社会資源の連携を強化し、取組を充実
- ・ 区市町村や学校等が効果的・継続的に活用できるよう、テーマによってカテゴリズ

※テーマは
今後検討

テーマA
例：キャリア教育

テーマB
例：共生社会

テーマC

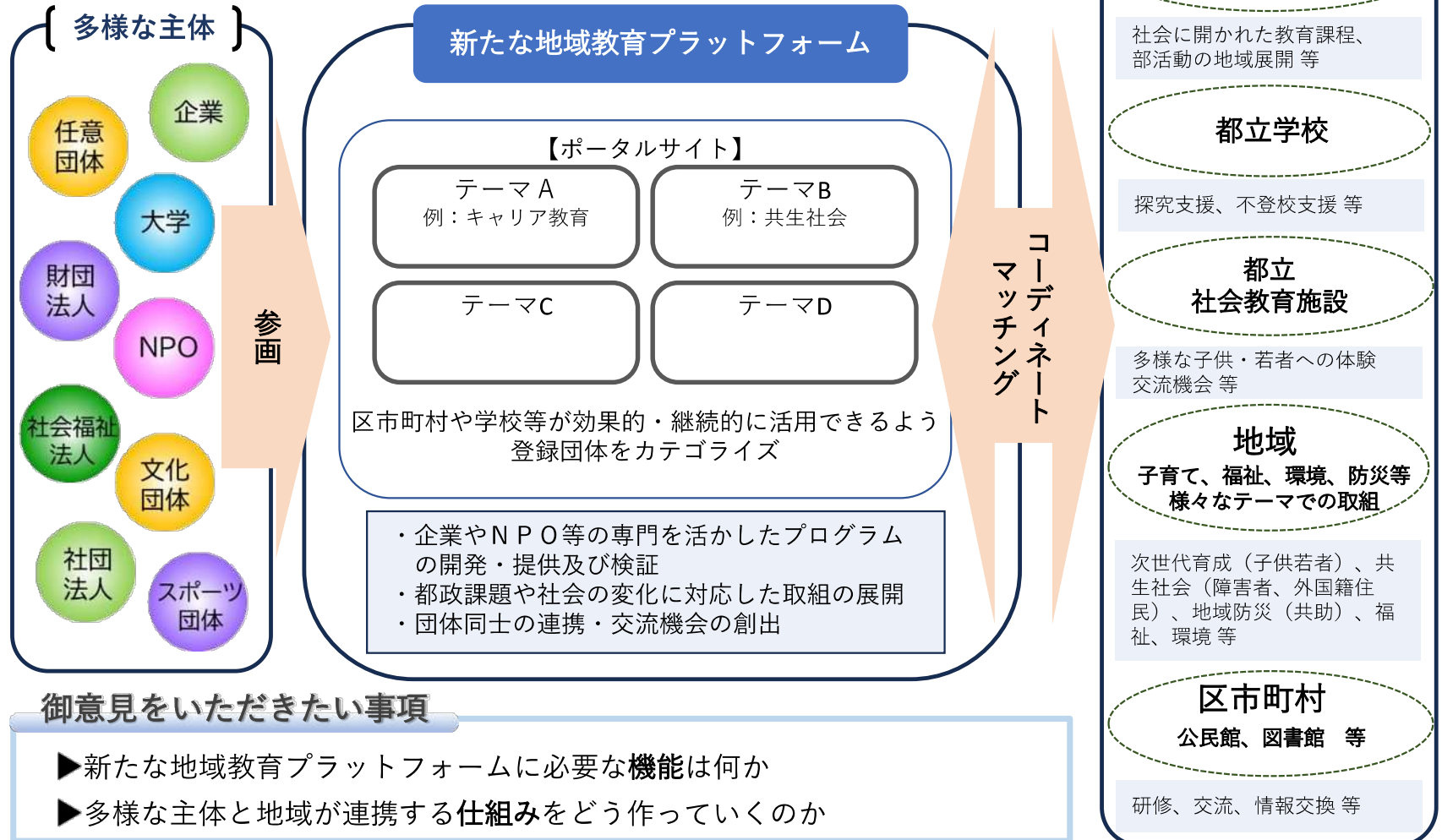
テーマD

教育プログラムのフィードバックや情報共有・情報交換

- ▶ 区市町村等が効果的・継続的に活用できるような仕組みを検討(情報検索システム、コーディネート・マッチング機能等)
- ▶ 地域に存在する社会教育にかかわる多様な人材の活用・連携方策を検討

新たな地域教育プラットフォーム(イメージ)

地域教育推進ネットワーク東京都協議会とインクルーシブな学び東京コンソーシアムの成果を踏まえ、東京の地域の教育力の向上を目指し、多様な主体が連携協働するためのネットワークの基盤を構築する



御意見をいただきたい事項

- ▶ 新たな地域教育プラットフォームに必要な機能は何か
- ▶ 多様な主体と地域が連携する仕組みをどう作っていくのか